

平成29年度

いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第4日 10月28日(土)

<講義>

一人一人の子どもが輝く授業づくり

講義資料



茨城県教育研修センター教科教育課
指導主事 河原 真樹

【要旨】

- ・学習指導の充実を図るためには、学習指導の「あるべき姿」を捉えること、教材研究を十分に行うこと、児童生徒との人間関係をよりよいものにする、児童生徒一人一人をよく知ることが重要である。
- ・教材研究では、「何を」「いつ」「どのように」の三つの視点を押さえる必要がある。教材研究の内容として、1時間の授業における導入、展開、終末のそれぞれの目的を捉えること、指導目標に合った教材を検討することなどが挙げられる。
- ・よりよい評価の第一のポイントとして、適切な評価規準を設定することが大切である。「おおむね満足できる」状況を児童生徒の具体的な姿として設定することが、指導と評価の一体化につながる。

<実践発表>

一人一人の子どもが輝く授業づくり

発表資料



稲敷市立新利根小学校
教諭 青山 幸江

【要旨】

- ・児童生徒が学ぶ姿勢になっていなければ、授業の効果が半減してしまうため、学級づくりをしっかりと行うことが大切である。
- ・授業の導入では、子どもを元気にさせ、学習意欲を喚起する活動を工夫することが大切である。
- ・単元の導入では、子どもたちに単元の課題・目的・方法を伝え、学習モデルを提示している。そうすることで、指導事項が明確になり、子どもたちの主体性を持続させながら学習を進めることができる。

<ワークショップ④> 一人一人の子どもが輝く授業づくり



塾生のアンケートより

- 授業を行う上では、「何のために学ぶのか」「何ができるようになればよいか」を児童生徒にも明確に示すことが重要だということを知った。【学生】
- 群読の体験では、楽しく元気な気分になり、一体感を感じることができたので、授業の導入で実践したいと思った。【若手教員】
- 講義と実践発表から、授業の導入・展開・終末の各段階では、どのようなことに留意して授業づくりを工夫すればよいか知ることができた。【学生】
- 教材研究をしっかりと行うことで、授業のねらいとまとめを意識した授業づくりができるようになりたいと思った。【学生】
- ワークショップでは、授業を導入・展開・終末に分けて、一人一人の子どもが輝くための具体的な手立てを考えることができた。【学生】